

◆2022年度アグリガーデンスクール & アカデミー9期生カリキュラム概要

有機農業実践基礎コース

	カリキュラム名		講師	概要
1	農業基礎入門	座学	岸本 博和	農業基礎やBLOF理論を学ぶための基礎分野として、「理」の教科である理科を総合的に復習します。これにより、漠然とした知識の羅列から脱却し、理にかなった知識体系の構築につなげます。理科は苦手、そんな過去は捨て去りましょう。
2	農業基礎 I	座学	寺崎 博史	植物の生理学や土づくりに欠かせない微生物の特徴などについて講義します。学生の頃に勉強した光合成の話は農業の世界ではとても重要だということに気づきます。※講義の進み具合によっては栽培実習やアクティブラーニングに変更する場合があります。
3	農業基礎 II	座学	一百野 昌世	昨今では自然が持つ物質循環機能を有効活用した環境保全・持続型農業(SDGs同様に)が叫ばれています。そのような中で、今後の農法のあるべき姿を模索するために必要な基礎知識を解説します。
4	BLOF理論 I	座学 実習	田中 誠	BLOF(Bio Logical Farming＝生態系調和型農業)理論を実践していくための基本知識を復習しながら確実に取得していきます。また、BLOFの実施例についてのケーススタディーを行います。畑実技については、主に圃場では太陽熱養生処理の実践指導を行います。
5	BLOF理論 II	座学	小祝 政明	持続可能な農業として①BLOF(Bio Logical Farming＝生態系調和型農業)理論の基本的考え方を理解し②生態系のメカニズムを学び、③植物の植物生理を学び、④農業者が自然の恵をどのように活用して農産物を生産しているのかを学び、⑤将来、農業経済、予防医学、環境保全の仕組みを自分の力で考えていくための基礎知識を身に付けていきます。また、持続可能なBLOF農業のザンビアでの実践例についてケーススタディーを行います。
6	ミネラル農業	座学	角 満雄 *	土壌の基礎知識(物理性・生物性・化学性)を学びます。また微量元素であるミネラルやpH、根についての話、営農として捉えたときにスピーディーに対応する手法などをお話していきます。土づくりと健康という視点で中嶋農法(ミネラル栽培)の考え方を取得します。
7	工程管理実践 (実習畑)	座学	富永 浩安	新規ビジネスやプロジェクトを立ち上げ発展させていく過程は①計画の立案、②内容の決定、③実施、④状況分析、⑤レビュー・評価、改善、つまりPDCA(Plan Do Check Action)サイクルによる実行となります。このサイクルをもとに、野菜栽培を通し野菜の栽培工程管理を学ぶと同時に、最終的にはマルシェでの販売を目標に、売上計画から販売までのPDCAも考えていきます。
8	土壌診断の実際と施肥設計	座学	富永/寺崎	土壌診断の意義と重要性についての考え方を学び、同時に、いくつかの畑をケーススタディとして土壌診断を実践します。また、土壌診断に基づく施肥設計についても指導します。
9	有機農業と生物多様性	座学	岸本 博和	農とは、人間が環境を改変して有用な産物を得ることです。つまり、程度や質の差こそあれ、農は常に環境に対して何らかの影響を与え続けます。この影響がヒトの存続にとって問題となる場合、原因となる農の再考が必要となります。現在がまさにその状況下です。ここでは主に、慣行農法と有機農業とを生物多様性の観点から生態学的に解釈し、それぞれの特徴について考えます。
10	農産物の品種改良について	座学	比良松 道一	農産物の品種改良の他、遺伝、それを取り巻く生物多様性についてお話しいたします。生物多様性は地球温暖化を抑制し、未来の農業を守ることにもつながります。自然の偉大さを実感しましょう。
11	土壌と人の健康学	座学	山谷 雅和	昨今の研究では、野菜に付着の微生物或いは、微生物が作る物質を食べることで人の健康を推進していることが示唆され、生命現象において微生物との「共生」という概念は、健康に大きく影響する腸内細菌を考える上でも全く同じ土俵で語ることができます。単に有機栽培であるだけでは語れない「何か」について、微生物が支える土壌と人の健康をテーマに 皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。
12	野菜の人の健康学	座学	丹羽 真清	野菜が持つ価値を数値化する考え方を学びます。野菜の機能性(免疫力・解毒力・抗酸化力)をデータを用いながら説明していきます。野菜の健康と人の健康の関連性を見ていき、その最新情報もお伝えします。また、これらの野菜の価値の数値化がマーケットにどのような影響を与えるかについて概説します。
13	農産加工で商品づくり	座学・実習	尾崎 正利	農業を営む上で収穫過多や出荷が出来ない農産物のロスを無駄にしないよう効率的な加工についての基礎知識を学び、収入安定につながるような講義を展開していきます。
14	OB畑での実習	実習	藤原農園/幸丸農園	AGSA卒業生の圃場見学・実習を行います。実際にAGSAで習得したことがどのように役立っているのか、先輩農業者としての生の声をお伝えします。
15	栽培実習(自主管理農場実習)	実習	寺崎 博史	講義で学んだ土づくりを実践していきます。夏前には各グループごとに畑での栽培計画から、播種、手入れ、収穫、近くの直売所での販売体験も行う予定です。雨の日は室内での作業やアクティブラーニングに変更します。

* (株)生科研に所属する他の専門家になる場合もあります。

【特別講義】 …農業の価値を高める観点から食育、健康、医療、農業ビジネス等の分野から専門家を招聘し実施します。

15	大人の自炊学	座学	比良松 道一 九州大学持続可能な 社会のための決断科学 センター准教授	「自炊にはすごい力がある」という基本的な考え方を基に、大学生に行ってきた食育の実績をもとに、大人向けの自炊塾を行います。子供や若い世代だけではなく、ベテラン世代にとっても改めて食を支える農業について、自炊による健康について考える時間となります。
16	医農連携によるイノベーション	座学	西村 訓弘 三重大学 地域イノベー ション学研究科・教授	伝統的に食べ続けられてきている食材を現代の医学分野の評価系で調べると解毒作用など体を整える機能を持つことが確認されます。私たちの食べ物はなぜ選ばれ食べ続けられてきたのか、また、食べ物を生産する農業では何を意識すべきか、私に行ってきた研究成果を基にお話したいと思います。
17	新しい時代の青果流通ビジネス	座学	原田 篤 横浜丸中ホールディン グス(株) 代表取締役社長	これまで日本の青果流通を支えてきた市場機能の優れた機能と問題点について分析し、客観的な視点から市場経営してきた経験から、新たな変革に向けての考察を行います。
18	医農科学の考え方	座学	堂脇 広一 (株)アグリガーデンス クール&アカデミー 代表取締役社長	土の健康、植物の健康、人の健康がつながるという観点から、「医」につながる「農業」の考え方と、「医」と「農」のつながりを科学的に追究していくことの重要性と意義について考察を行います。

* その他、カリキュラム実施の推移を見ながら、さらに専門家を招聘することもあります。

以上